

日本語(106)(107): 総合日本語 (6) (L6-7) 2017 年 A セメスター シラバス**科目名・曜日・時限 (教室) と担当教員**水曜 2 限 (150): ^{かたやまともこ}片山智子 *****@*****金曜 2 限 (10-201): ^{まつしたたつひこ}松下達彦 *****@*****.c.u-tokyo.ac.jp

*L6-7 コーディネータ 松下達彦

Eメール: *****@*****.c.u-tokyo.ac.jp

電話: 03-****-**** (研究室直通) または 内線 *****

研究室: *****

面談・アドバイスを希望する場合: 事前にアポイントメントを取ることが望ましい。

(火曜～金曜の午後は研究室にいることが多い。)

対象: KOMSTEP/USTEP の L6 以上のレベルの学生のみ**単位数:** 計 4 単位 (日本語 (106)(107)の週 2 コマの両方を登録し、同時履修しなければなりません)**授業の目標、概要**

この科目は上級レベル (上位 1 万語がほとんど理解できるレベル) の学生を対象とする。聴解や読解を通じて、世界や地域社会を理解するための語彙や社会文化知識を学生自身が増やしていくのを支援することを目指す。討論や論説的文章作成の基礎的な訓練も行う。文学や時事的な話題などは選択科目で扱うこととし、この科目ではいくつかのより学術的なトピックを取り上げる。また、学習や生活を自己管理する能力の向上を目指す。

より具体的には、科目の終了時まで以下に以下の諸点を実現することを目標とする。

- 1) 人文学、社会科学、環境科学などの分野の論理的な談話や文章を通じて、語彙や社会文化知識を増やす。
- 2) 丁寧な話し方や文体、くだけた話し方や文体など、多様なスタイルの日本語を使えるようにする。
- 3) 討論、口頭発表やレポート作成を通じて、多角的な視点、批判的な思考力、他者との協働によって新たな知を創造するためのマナーを身に着ける。
- 4) 知のネットワークを拡大し、社会・文化・自然に関する疑問を学術的な枠組みで考えるための知識を得る。
- 5) 言語を通じて学習や生活を自己管理する基本的な能力を身につける。

授業のキーワード

聴解 読解 学術日本語 知の創造 地域社会 学習管理

授業計画別添^{べつてん}のスケジュール表を参照すること。

使用教材

教科書は使用しない。生素材をユニットごとにまとめたもの（パッケージ）を配布する。各ユニットには以下のリスト、シートなどがある。

- 語句・表現リスト （各素材の一つ、ない場合もある）
- 読解シート／聴解シート （各素材の一つ、授業時に配布されるものもある）
- 読解／聴解 生素材
- 短文作成シート （各ユニットに2ページ1枚）

聴解の素材は別途、音声ファイルを配付することがある（一般的には授業での視聴後）。

このほか、「学習・生活 振り返りシート」など、学習管理、自律性の向上に関連するハンドアウトを必要に応じて配布する。

授業の方法

A) 学生に要求されること

- 指定されたテキストを読んで（または音声ファイルを聞いて）授業に参加すること。その際に、
 - テキスト中の語句の意味を確認して覚えること。また、漢字語の読み方を確認して覚えること。また、漢字語を手で書けるようにしておくこと。
 - 読解シート（または聴解シート）に取り組み、「読む前に」「内容理解」「発展」（先学期と違うので注意）を書いて、授業に持参し、授業開始時に教員のチェックを受ける。
 - 短文作成シートを授業時に提出する。シートには「語句・表現リスト」の中から5つ選んで、その語句の使い方がよくわかり、かつ自分の生活に役立ちそうなオリジナルの文を作成する。また、各自がそのユニットで必要だと思う語句を「語句・表現リスト」以外からさらに5つ選んで、同様に文を作成する。
 - テキストの内容について疑問点があれば、それについて質問すること。
 - 授業内での討論に積極的に参加し、他者と異なる視点や考え方を積極的に提示すること。
- 授業の内外でのクラスメートや教員からのフィードバックを批判的に受容すること
- 「プロジェクト」として、自分のよく知っているトピック（「あなたの知らない〇〇の世界」）について、プレゼンテーション大会でプレゼンテーションを行う。（詳細は授業内で説明する。）
- 「私の留学生活」の授業の一環として、「目標設定シート」「振り返りシート」等を作成、提出する。クラス内でその内容について建設的に議論し、内省する。内省に基づき学習や生活を改善する。

B) 担当教員の行なうこと

- 提示された授業時間において、クラスの運営を適切に管理し、ここに示した計画の通り授業を進めること。変更は、合理的かつ明確な理由を提示し、学生の了解を経た上で行うこと。
- 個々の学生のニーズとレディネス・学習環境に応じ、学習に関する適切なアドバイスや学習リソース提供を行うこと。
 - 事前に取り組む予習課題を提示すること。
 - 提出物に適切なフィードバック（表現の添削や内容に関するコメント）を与えること。
 - 授業内での討論を企画し、討論の内容に適切なアドバイスやコメントを与えること。

- 「プロジェクト」や「私の留学生活」などについて、必要に応じて適切なアドバイスをすること。
- 目標の達成度を、適切な基準によって評価し、各学生にフィードバックすること。

授業目標を達成するためには、上記AとBについて、学生と教員による所定の努力が必要である。

成績評価方法

以下の諸点に基づき評価する。(Baselineは必須課題を、Extensionは任意課題を指す。各項目のより詳しい評価基準については別紙参照。)

1) クラス内での活動	10%	
2) 読解・聴解シート	5%	最終的な成績
3) ユニット作文	5%	A : 100~80
3) 短文作成シート	5%	B : 79~65
4) 語句テスト	5%	C : 64~50
5) 中間試験	25%	F (不合格) : 49~0
6) 期末試験	25%	
8) プロジェクト：プレゼンテーション	15%	
9) 学習・生活の振り返り（作文等）	5%	
	計100%	

※ 1)については、各教師が個別に評価する。2)~9)については、2人の教師が合同で評価する。

* 出席が70% (各教員の授業13回中10回) に満たない場合はF (=不合格) または「未受験」となる。

30分未満の遅刻・早退は3回で欠席1回と計算される。30分以上の遅刻・早退は欠席とする。

* 提出物は原則として提出期限を過ぎたら受け取らない。(事故や病気により遅れて提出する場合は、証拠(例：病院の領収証)を示すこと。)

* 語句テストを事故や病気で欠席した場合、語句テストの授業内返却日の前日までにコーディネータ(松下)に病院の領収証等の証拠を提出した場合に限り、遅れて受験することを認めることがある。

* 中間試験や期末試験を事故や病気で欠席した場合、原則として医師の診断書を提出した場合に限り、後日の受験などの代替措置を認める。

「クラス内での活動」の主な評価基準

提出物の合評、発表後のディスカッション、教員の講義に対する質疑など、クラス内での活動全般について、以下の諸点などにつき、教員の観察により総合的に評価する。

✚ 積極性、頻度

✚ わかりやすさ、発言の態度・方法

- ・わかりやすいか
- ・発言は効果的になされているか
- ・他者と議論する際のマナーは適切か

✚ 論理性・批判性

- ・根拠に基づいた議論か
- ・異なる視点の提示や検討があるか

✚ 創造性・発展性

- ・新しい発想や刺激があるか
- ・新しい課題の発見があるか

読解シート

- ・授業開始時に「読む前に」「内容理解」にまじめに取り組んだかどうかをチェックする。提出、記入がされていない場合は減点する。

ユニット作文

- ・ユニットで学んだことについて、最後に作文する。テーマによって評価基準は異なるが、学術的な文章については、レポート同様のスタイルが要求される。

短文作成シート

- ・提出、記入がされていない場合は減点する。特に優れた文には加点する。優れた文とは以下の条件を二つ以上満たす文である。
 - その語の使い方がよくわかる文
 - その人の生活に役立つことがよくわかるオリジナルの文
 - 具体的かつ独創的で、印象に残る文

語句テスト

各ユニットの「語句・表現リスト」と読解／聴解テキスト本文全体を対象とする。

- ・「語句・表現リスト」の語句、表現については使用できるかどうかをテストする。
- ・「語句・表現リスト」以外の語句は、理解できるかどうかをテストする。

(ディクテーションもあり、語句を聞いてわかるかどうか、漢字で書けるかどうか、についてもテストする。)

中間試験・期末試験

語句、聴解、読解について出題する。一部は初出の素材を使用した試験となる。

詳細は、授業開始後にあらためて指示する。

プロジェクト

①内容／視点、②構成、③文法／表現、④発音／速さ、⑤話し方、⑥スライド、⑦質疑応答の七つの観点から総合的に評価する。

学習・生活振り返りシート

どのぐらい学習の管理や振り返りがよくできているか、を主に評価する。以下の観点から、学生と教員のそれぞれが評価する。①目標設定・活動の選択（有用性・適切さ）、②計画性・継続性、③内容・質（過程・成果）。進め方の詳細は授業内で説明する。

不正行為の禁止

試験におけるカンニング、提出課題における他者の著作の盗用などの不正行為は固く禁じられている。提出課題は必ず学生自身のオリジナルでなければならない。他者の著作を引用する場合は、引用の範囲または内容と、出典が明示されていなければならない。カンニングや盗用が証明された場合には、大学の規定により、当該学期のすべての科目の成績が自動的に「不可」(F)となる。

関連ホームページ

必要に応じて配布物や授業内で指示する。学生からの情報提供も歓迎する。

以上